

共同研究 便所の歴史・民俗に関する総合的研究

期間：2019年～

〔所員〕 須崎文代 内田青蔵 泉水英計

「便所」から住まいと人間の営みの歴史を考える

——共同研究「便所の歴史・民俗に関する総合的研究」の創設——

須崎 文代

2019年4月より共同研究「便所の歴史・民俗に関する総合的研究」が創設された。人間生活の営みを遡れば、最も古いものでは古代の遺跡から水洗式の一種と考えられる便所の遺構が発見されており、以来、現代にいたるまでには世界各地でさまざまな排泄に関する文化が見られる。この共同研究は、こうした住まいの便所に関わる歴史と文化を、民俗（風習や民間信仰）、生業における糞尿の扱い、身体技法や衛生観と穢れの観念、農村と都市の関係性、近代における技術革新をはじめとする文明史的観照など、多角的な観点からの検討を通して、総合的に研究することを目的としている。

本年度は、その初年度として下記の講師陣を招き、全4回の公開研究会を企画（うち第1～3回を開催）した⁽¹⁾。



写真1 飯島吉晴氏による講義と多数の文献資料（第1回研究会）



写真2 研究会での川田氏と会場の様子（第2回研究会）

第1回 飯島吉晴氏（元天理大学教授）
「厠と厠神をめぐる民俗学的研究の課題」2019年7月18日（木）
16:00～18:00

第2回 川田順造氏（神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員）
「便所の異文化間比較アフリカ・日本・フランス」2019年12月20日（金）16:00～18:00

第3回 木下正史氏（東京学芸大学名誉教授 奈良文化財研究所名誉研究員）
「古代のトイレを発掘する」2020年1月16日（木）
16:00～17:30

第4回 全京秀氏（ソウル大学名誉教授 神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員）

「暮らしの中の糞——1930年代男鹿農村に関する生態人類学的考察——」

(※ Covid-19 感染拡大防止のため
2020 年度に延期)

研究会のテーマは、便所に祀る神仏と民間信仰や風習、便所の形式と身体技法の関係性、藤原京をはじめとする古代遺跡における便所など貴重な内容ばかりで、学内外から多くの参加者より関心が寄せられた。研究会の場で交わされた質疑応答や議論も非常に活発なものであった。

本年度は創設初年度のため、具体的な調査としては研究所および担当所員の所蔵する文献資料の通覧や沖縄に現存する豚便所「ふーる」(人糞を家畜の餌として再利用するもの)の視察を行い、今後の研究体制の構築を目指した。

なお、本共同研究の設立前には、広州外語外貿大学における国際フォーラム「東方学研究フォーラム」が「厕所革命(便所の革新)」をテーマに開催された。このフォーラムにおいて、佐野賢治教授、周星教授、須崎文代が講演を行い、便所と糞尿にまつわる総合的研究の必要性が共有されたことも、本共同研究創始の契機のひとつとして重要と考えられるため、ここに付記する⁽²⁾。

【注】

- (1) 第4回公開研究会は Covid-19 感染拡大防止のため、2020 年度に開催延期となった。
- (2) 須崎文代「東方学研究国際フォーラム「厕所(便所)革命」に参加して——共同研究「便所の歴史・民俗に関する総合的研究」に向けて——」『民具マンスリー』52 巻3号(2019.6)に詳しい。

■ 2019 年度の活動

- 第1回公開研究会「厠と厠神をめぐる民俗学的研究の課題」飯島吉晴(元天理大学教授) 2019年7月18日
- 第2回公開研究会「便所の異文化間比較アフリカ・日本・フランス」川田順造(客員研究員)
2019年12月20日
- 沖縄の伝統的民家における生活文化および便所の遺構に関する視察調査 2019年12月21日~22日 沖縄県那覇市中部、琉球村ほか 須崎文代
- 第3回公開研究会「古代のトイレを発掘する」木下正史(東京学芸大学 名誉教授・奈良文化財研究所 名誉研究員) 2020年1月16日
- 第4回公開研究会「暮らしの中の糞——1930年代男鹿農村に関する生態人類学的考察——」全京秀(ソウル大学 名誉教授・客員研究員)(※ Covid-19 感染拡大防止のため2020年度に延期)



写真3 木下氏による古代の便所に関する講義(第3回研究会)



写真4 重要文化財中村家住宅の「ふーる」(豚便所)(須崎撮影)